

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.187

発行: 令和2年 12月 1日



講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「多肉植物でリース作り」

とき 令和2年12月6日(日) **2,500円**

午後1:00~3:00 定員10名

講師 フラワーマスター 山本 裕美 さん



「コキアでほうきを作ろう」

とき 令和3年1月9日(土) **500円**

午後1:00~3:00 定員10名

講師 緑のセンター職員



「マクラメ編みでプランツハンガー作り」

とき 令和3年1月10日(日) **500円**

午後1:00~3:00 定員5名

講師 緑のセンター職員



『美肌・リラックス』〜バスソルト・クリーム作り〜

とき 令和3年2月4日(木) **800円**

午後1:00~3:00 定員10名

講師 ハーブコーディネーター

建部 久美子 さん



講習会開催の予定

*令和3年2月*果樹の剪定と栽培管理

*令和3年3月*フラワーアレンジメント

講習会のお知らせ等につきましては、

緑のセンターだより、市民広報等でお知らせいたします

年末年始のお知らせ

いつも 緑のセンターをご利用いただき ありがとうございます。

2020年12月30日(水)~2021年1月4日(月)まで 休館いたします。

新年は1月5日(火)より開館となりますので どうぞよろしくお願いいたします。

歩くスキーセットの無料貸出

- ①スキー板 ②スキーポール
③スキー靴(靴のサイズ調整のため、靴下をご持参ください)

時 期: 12月中旬を予定

受付時間: 10時~最終16時まで

積雪、コース状況などは電話でご確認ください。



展示会のご案内

「神楽岡公園の四季写真展」 * 2020年12月 1日(火)~12月27日(日) * 作品提供: 板垣 吉春 さん

「神楽岡公園の自然写真展」 * 2021年 1月 8日(金)~ 2月28日(日) * 作品提供: 阿久津 弘明 さん

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")

〈園芸の基礎知識〉 植物の根の働き

～ 根の養分吸収と活力 ～

■根の活力とは

根が持つ、養水分の吸収、物質の貯蔵、茎葉部の支持固定、ホルモンなどの生育調整物質の生産分解機能を総合化した能力のことを活力といいます。作物栄養の面からは、主に養水分の吸収に焦点が当てられています。

■根の湿害

植物の根は必要な養分を吸収しますが、土の中に存在している養分の濃度は一般に低く、また植物に好適な割合でありません。それで植物の根はエネルギーを使って必要な養分を積極的に選択吸収しますが、そのエネルギーは根の呼吸によってまかなわれています。根のまわりの土には大小の隙間があり、小さい隙間には水分が、大きい隙間には空気が含まれてたえず地上との間でガス交換が行なわれています。しかし、水はけの悪い土では、降雨のあと長い間孔隙の大部分は水で満たされ、ガス交換も悪くいわゆる過湿の状態が続き、酸素不足になります。そうするとカリウムやリン酸や硝酸やアンモニウムイオンといった呼吸依存度の高い養分は吸収が抑制され、さらに呼吸困難で根が死にかけてくと水も吸収できなくなります。これが湿害で、耐湿性の弱い畑作物はこのような理由で水はけのよい土を好みます。

■養分吸収を阻害する物質

根の養分吸収を阻害する物質として有機酸類や水溶性のアルミニウムなどがあります。有機酸類は有機物が分解する過程でできるもので、カリウムやリン酸などの吸収を阻害します。またアルミニウムは土のなかにはたくさんあるものの、普通の土(pH5以上)ではほとんど溶け出しませんが、酸性化が進んでpH4.5以下になると溶解度が増えて根の生育を阻害します。これが酸性土壌障害の一因です。わが国は気候の関係で酸性土壌が多く、対策としては石灰施用が有効です。

(参考資料:農文協「最新農業技術事典」、研成社「根物語」ほか)

ちょっと楽しい講座のご紹介

緑の講習会「庭木の冬囲いを覚えよう」から

庭木の冬囲いは多雪地帯の旭川では冬の風物詩です。

冬囲いの目的は、①冬の乾いた寒風による凍害などを防ぐ、②雪の重みによる枝や幹の折損を防ぐ、③耐寒性の弱い植物を寒さから守る、④冬を装飾して景観を良くする、などがあげられます。

当緑のセンターでは、10月3日(土)に職員による「庭木の冬囲いを覚えよう」という講座を開催しました。コロナ禍の折、受講者の

方々は、3密を避けるために10名の少数でしたが、マスク着用はもちろん、アルコール消毒した室内で、まず、縄の男結びの方法を学びました。男結びはしっかりと締め、縄を無駄なく使うことができ、見た目も美しいものです。

その後、公園に出て、冬囲いを実習しました。

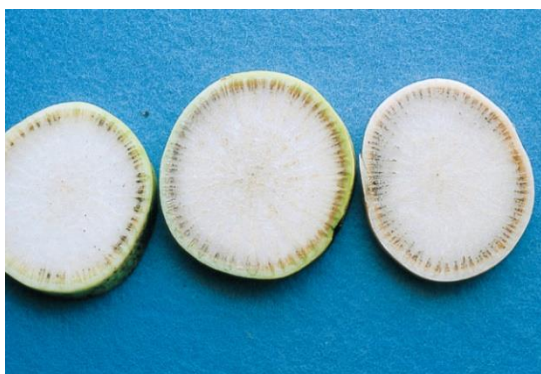
地方により呼称や方法は異なりますが、低い樹木の場合は、①縄巻き(紐巻き)、②竹囲い(小丸太囲い)、③こも巻き(ネット巻き)、④屋根囲いなどがあります。受講者の方々は、実際に男結びを用いて縄巻きの方法を経験されました。

「冬囲い作業は早くできそうで、美しい冬囲いができそうです。家族に自慢できます。冬の景観美に一役買えそうです。」とそれぞれ喜んでいました。



植物の病害虫

その58 「ダイコンのバーティシリウム黒点病」



輪切りにした時の症状



縦切りにした時の症状

1 寄生しやすい植物

ナス科、アブラナ科、ウリ科、キク科など多数の植物に被害をもたらします。

本病は主要なダイコン産地全般において発生がみられており、特にジャガイモの作付面積が多い地域での発生が多くなります。

2 被害

本病は収穫時においてもほとんど茎葉部での外部病徴を示しません。しかし罹病したダイコンの根は、特に根頭部から首部の維管束に黒点症状が現れます。病徴は黒点が数個確認されるものから維管束全周、さらに内部におよぶ場合もあります。また、首部で病徴がないものでも、先端部維管束に数個の黒点が発生する場合があります。

3 生態

本病の発生が最も多い作型は初夏まきです。本病は土壌伝染し被害残渣とともに微小菌核が土壌中に残ります。微小菌核は土壌中で10年以上生存するとされています。

4 防除法

耕種的防除

- ① 未発生圃場では適切な輪作体系をとり、見逃しやすいジャガイモやナスの半身萎凋病の発生に注意します。

◎主要野菜の科の分類

ナス科(ナス、トマト、ピーマン、シシトウ、ジャガイモなど)。**ウリ科**(スイカ、メロン、キュウリ、カボチャなど)。**アブラナ科**(キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、ダイコン、カブなど)。**キク科**(レタス、ゴボウ、シュンギクなど)、同じ仲間(科)が連作にならないように注意して作付け計画を作ります。

◎輪作年限 **4～5年**(エンドウ、スイカ、ソラマメなど)。**3～4年**(エダマメ、トマト、ナス、ピーマンなど)。

2～3年(インゲン、オクラ、キャベツ、キュウリ、ジャガイモ、ダイコン、ハクサイなど)。

1～2年(イチゴ、下部、コマツナ、シュンギク、ネギ、ハウレンソウ、チンゲンサイなど)。

- ② 汚染土壌を持ち込まないように注意(農機具、スコップ、クワ、長靴など)します。
- ③ 少発生圃場では、抵抗性品種の作付けにより、被害を回避できますが、ただし、抵抗性品種を作付けしても無発生にはできません。
- ④ 収穫時期が遅れると、栽培日数の経過および根の肥大とともに本病の発生株率、発病度が上昇する傾向にありますので、適期収穫を行うようにします。



冬に洋ランを楽しむ

12月から1月にかけて日照時間は短くなり、寒さも一段と厳しくなります。一方で室内は暖房がフル稼働して乾燥状態になるのが旭川の冬です。この時期に草花を楽しむのは鉢物ということになりますが、冬の洋ランは咲きだすと1カ月ほども花を楽しむことができる種類が多いので、趣味としている方々には至福の時となります。

ほとんどの洋ランは熱帯、亜熱帯が原産なので、旭川の低温時は必ず暖房が必要になります。下の表は、主な洋ランの最低温度の管理と水やりの目安です。

どの種類も日光は大切ですが、窓辺は外気温の影響を受けやすいので注意。また、自然な環境は一日中風が吹いていますが室内は無風なので、空気が動く環境を整えるのに扇風機を利用するのも一案です。○乾燥した室内にはハダニが発生して繁殖します。特にシンビジウム

最低温度の目安(品種によって異なる)		水やりの目安 (鉢の表面)
カトレヤ	朝10～15℃	表面が乾いてから1、2日後
シンビジウム	朝 7～12℃	表面が乾いたら
コチョウラン	朝15～18℃	表面が乾いたら
デンドロビウム	朝10～15℃	表面が乾いてから2、3日後
オンシジウム	朝10～15℃	表面が乾いてから2、3日後
パフィオペデルム	朝10～15℃	表面が少し乾いたらすぐ

ムやデンドロビウムは注意が必要です。葉裏のツヤが無くなったり、白っぽくなったり、粉状のものが付いたらハダニと思ってください。殺虫にはダニ専用剤が必要です。(その他、注意する害虫:カイガラムシ、アブラムシ、ナメクジ。 注意する病気:炭疽病、斑点病、灰色カビ病、ウイルス病群など)

○花が終わった株は疲れています。置き場所は低温のところや温風があたるところは避ける。濃い肥料は与えない(与える場合は2,000倍以上に薄める)。水は乾いてから…。カーテン越しの日光を与えて株の回復を図って下さい。葉の裏めがけて、夕方に毎日シリンジ(霧吹き)をするとランの機嫌が良くなります。

展示室の植物 (93)

チランジア キアネア アニタ 学名:Tillandsia cyanea パイナップル科チランジア属



12月の誕生花 キアネアは、鮮やかな淡いピンクのウチワのような苞に3cmほどのブルーの花をつける特異な形をしています。

独特の色合いと甘い香りを楽しめるこの花の原産地は中南米(ペルー、エクアドル)ですが、一般家庭でも8℃以上で乾燥気味に管理すれば室内で十分に越冬させることができることから園芸店でも一般の観葉植物と同様に販売されていることがあります。しかし、普通の植物とは全く違う性質をもっていて、根は殆どありません。根は水を吸うというよりも岩や木などに着生するための役目が主で、その代り、葉が養水分を吸収する能力を持っていることから「エアープランツ」の仲間には分類されています。